

## ロバ乗馬（毎日実施中！）

当園では、30kg以下のお子さまはロバに乗ることができます。  
スタッフがロバをひいて、運動場を一周します  
お子さまの思い出づくりにいかがですか？

- 受付時間：10:00～12:00・13:00～15:00
  - 開催場所：「ふれあい動物園」ロバ舎横 ロバのりば
  - 参加費：1周200円
- ※雨天時は、中止になります。  
※お客様が多い場合は、早めに受付を締め切ることがあります。

## ★キーパーズトーク「トラ」★

今回は、「トラ」どんなおはなしが聞けるかな？  
当園のトラ「ミライ」は、寒い地域に生息するアムールトラです。冬のミライは、一段と大きく見えませんか？  
実は、アムールトラの夏毛と冬毛にヒントがあります。  
夏毛は、1.5cm程度で、冬毛になると、4.0cm～5.0cmにもなるといわれ、倍以上ですから、冬は、迫力満点になるのもうなずけます。  
一年を通して、観察してみるのも面白いですね。  
さあ、今回はそんなトラの生態などについて、飼育スタッフがわかりやすく解説します。  
ぜひ、キーパーズトーク「トラ」にお越しくださいね。  
日時：2月の土日・祝日 11時30分～11時45分頃  
開催場所：「林床の世界」トラ運動場前

天候などの都合により変更・中止することがあります。どうぞご了承下さい。  
詳しくは、HPもしくは到津の森公園(651-1895)まで、お問い合わせ下さい。

## 森の仲間たち



「到津の森公園」公園事務所  
北九州市小倉北区上到津 4-1-8  
Tel 093-651-1895 〒803-0845  
<http://www.itozu-zoo.jp/>

# 森のお便り 2月号 2018年

発行・編集 「到津の森公園」「森の仲間たち」18年2月1日発行 通巻170号

## ☆～森のおはなし探検隊～☆

今回のテーマは、「フィールドビンゴ」です。

ビンゴカードに書かれた、手触りの感触を探して、ビンゴを完成させましょう！

例えば、当日、雪が積もっていたら・・・「ふわふわ」かな。  
皆さんは、いくつの感触を探ることが出来るでしょうか！？

たくさんのご参加をお待ちしております

- 日時：2月11日（日）13時～
- 開催場所：子どもホール 2F
- 参加費：無料・事前予約不要（別途要入園料）

## 「干支展～タヌキ～イヌはいぬがタヌキはいる。」 開催中！

イヌ科の動物で、当園にて生活しているタヌキに  
スポットを当ててみました

- 開催日時：2月28日(水)まで
- 場所：到津の森公園 管理センター2階ロビー  
「記念撮影コーナー」

スタッフ手作りの帽子をかぶって撮影できる人気のイベント。  
記念の一枚として、ご利用ください。

「パネル展」  
タヌキの生態や身体の特徴など、クイズや写真で楽しみながら  
学ぶことが出来ます。  
今年の目標を書き込む絵馬のコーナーも設置します。

暦では春を迎えたというのに、この寒さの中、母の愛する実家の梅が咲き始めました。園内を眺めても花の姿はわずかなもの。それでも目線を低くしてみると、咲いている咲いている。

ジゴクノカマノフタ・オオイヌノフグリ・スミレ・ホトケノザ……。いまだ丈は低くても春を呼ぶ野草たちが陽だまりで花をつけています。その中でも私のお気に入り、タンポポの仲間たちです。近年では、在来のカントウタンポポと外来のセイヨウタンポポ・アカミタンポポの違いが話題となりますね。

誰にも親しまれている彼等だけでなく、タンポポの仲間には、たくさん種類があります。

時に襲ってくる寒風にもさり気なくやり過ごし、あるいは地面にしがみつき、花開いて生きている様子。そのいかにも野生の植物らしい姿をみると、心が暖かくなってゆくの。たとえばジシバリは小さなイチヨウのような円い葉は薄く柔らかい。丈10cm位のジシバリとよく似て、20cm位のオオジシバリは、へら形の葉で少し湿っぽい土地が好き。昔はどちらも住宅地の空地に広がり、子供の遊び場として走り回ったり座り込んでおしゃべりに励んだり、楽しい思い出を育んでくれました。

ニガナはタンポポと同じ形の花びらながら、1花に5枚とさっぱり感があり、人里から山地までいたる所で見られます。北九州でもまだ海水浴のできる砂浜があったころには、丈は5cm位ながら、茎に比べて花が大きく全体にしっかりしたハマニガナもみられたものです。これは写真をとるのが苦手の私でも、なかなか可愛く写ってくれる嬉しい野草なのです。

コオニタビラコ(タビラコ)、これは原っぱより田んぼの住人ですね。「春の七草」のホトケノザはこのタビラコだと言われています。彼らは全て在来の野草たちです。若葉は茹でて、あるいは生で世界中で食べられ、動物達も大好きです。独特の苦みが胃薬としても利用されてきました。

それにしてもタンポポの仲間の多い事。花の様子は皆よく似たものばかり。とても見ただけで判別できるものではありません。たまには小さな図鑑を持って園内を回ってみませんか。一人前にそれぞれ名前を持っているのがわかり驚かされます。

文:花咲くおばさん

# 花暦如月

## 森の仲間たち・レッサーパンダ

### 恋の季節

昨年7月に誕生したレッサーパンダの女の子。「野花(ノハナ)」というかわいらしいお名前を付けていただきました。離乳も完了し、ご飯も大人と変わらないくらい食べるようになり、すくすくと成長しています。

そんな野花の両親、リンリンとノカゼはそろそろ大切な時期を迎えます。そう！「恋の季節」です。レッサーパンダは1～3月にかけて恋の季節を迎え、6～7月にかけて1～2頭の赤ちゃんを出産します。

絶滅が危惧されており、日本の動物園は世界の動物園で飼育されているシセンレッサーパンダの7割を飼育し、血統管理を行いながら繁殖させています。その中でも、当園のリンリンの血統は大変貴重なものなのです。

リンリンとノカゼのペアが出産するようになってから今回で5度目のシーズン。ノカゼが育児中だった為しばらくは別々に暮らしていましたが、恋の季節に合わせて同居を行ったところ、「キュルルル～」や、「ピー」と小鳥のような鳴き声を出しお互いを呼び合う「恋鳴き」や、じゃれ合って遊ぶ「恋あそび」(と、勝手によんでいます)も見られています。子どもがいる中での恋の季節は初めてのこととなりますが、リンリンの血統を守るべく、今年も期待しています。

ぜひ、みなさんも今しか見る事の出来ない「恋鳴き」や「恋あそび」を見に来てください。そして、レッサーパンダの恋の行方を見守ってくださいね。



飼育展示係 中上 志保